

やまがた CS 便り

コミュニティー・スクール

三校（山潟中・山潟小・桜が丘小）合同版

令和4年10月

No.3

第3回「学校運営協議会(三校合同会)」開催！

9月30日(金)、第3回「学校運営協議会(以下CS)」が開催され、6名のCS委員と3校の教職員等が山潟中学校に集いました。今回のCS会議の主な内容は、以下の三つです。

- (1) 山潟中学校区 学校保健委員会
- (2) 前期学校評価について
- (3) 教職員の任用について

初めに、「学校保健委員会」が開かれ、その後、各学校から「前期の評価」に関する報告や、「教職員の任用」について意見交換などが行われました。協議会も3回目となり、和やかな雰囲気の中、活発に意見が交わされ、今後も地域と学校、保護者が協同歩調で取り組んでいくことを確認しました。

(1)～(3)それぞれの概要について、ご紹介します。



(1) 山潟中学校区 学校保健委員会



① 山潟地区の子どもたちの実態と健康課題について

山潟中学校の高橋養護教諭から、今年度の健康診断結果の報告があり、山潟中学校区の児童・生徒は「身長」「体重」で、男女ともに市の平均を上回っている学年が多いことが分かりました。

また、小学生男子と女子の一部(小2・3・5、中1)に「肥満傾向」が見られる他、特に中学生で「歯肉に炎症」がある子どもが多いという課題が浮き彫りになりました。長引くマスク生活で、口の中の衛生環境が悪化している可能性が考えられます。

② 肥満に関する保健指導等について

①の課題に対し、山潟小学校の滝川養護教諭から、自校で取り組んでいる肥満対策について紹介がありました。肥満には体の硬さや運動不足が影響していることから、体育の授業やイベントなどで「柔軟性」や「運動能力」を向上させるべく、児童が楽しく主体的に取り組めるような工夫、指導を行っているということです。



③ 食に関する指導について

また、桜が丘小学校の関川栄養教諭からは、食育に関する取り組みが紹介されました。給食では、根菜や固い物の残食が多い傾向から、「かむ力」をつけるための献立作りと指導をセットで行った他、給食レシピ集の配付(全家庭)や給食委員会の子どもたちによる「残飯ゼロプロジェクト」などを展開しているそうです。

まとめとして、南地域保健福祉センターの広川清子さん(保健師)より指導・講評をいただきました。

コロナ禍の影響で、小学生の肥満や怪我が増えている一方、高学年では、痩せすぎの子どもも見受けられ、中学生では入院する子もいるそうです。また、山潟中学校区では運動に取り組む大人が少ない傾向にあることで、「ぜひ、子どもと一緒に、大人も運動に取り組んでもらいたい!」とお話されていました。

(2) (3)は裏面につづく←

(2) 前期学校評価について

各小・中学校では、年度始めに定めた教育の重点目標などの達成を目指し、活動を進めてきました。

前期の教育課程を振り返り、児童・生徒、保護者、教員に対して行ったアンケートの結果、及び、今後の課題について、各校長から説明がありました。

【 山潟中学校 】

学力の向上／生徒は目標を上回る肯定的評価だったが、ICTの活用に関し、教職員の自己肯定評価が40%台と低かった。ICTの活用を柱に、特に生徒の表現力向上を意識した授業づくりに努め、学力向上につなげたい。

心の育成／個と集団の両面で心身の成長が見てとれ、生徒と教職員との人間関係は概ね良好である。いじめや問題行動等の未然防止・早期発見・課題解決のための迅速・丁寧な組織的な対応を重視して取り組んでいく。

健康増進・体力向上／平日2時間以上デジタル機器を利用する生徒が30%を超え、学習や睡眠時間の確保に影響していることが推測される。今度、メディアコントロールの指導や働きかけの在り方を、保護者や地域と共に模索していく。

【 山潟小学校 】

学習／児童は、授業とのつながりを意識した家庭学習が概ね習慣化している。研修等で教師のICT活用能力の向上を図った。話し合いや書く活動とICTを活用したアウトプットとの適正バランスについても追及していく。

生徒指導／お互いの良さや頑張っていることを伝え合う活動（ハッピータイム）に喜びを感じている児童が多い。縦割り班活動で異学年の児童同士がかかわり合う場を多く設定し、自他ともに認め合う児童を育成していく。

特別支援教育／どの学級も、黒板周りをすっきりさせ、掲示物は児童が見やすい場所にまとめて貼る等、教室環境を整えた。多様な学びを保障し、互いに助け合って学ぶ具体例の職員研修を行い、「みんなが分かる授業」を目指す。

【 桜が丘小学校 】

やさしく／温かい言葉や態度、挨拶をするように心がけている児童、また働きかけをしている保護者が約9割と肯定的評価を得ている。挨拶については児童に二極分化が見られるので、「気持ちの良い挨拶」の定着に努めていく。

かしこく／学校で推進する「10分×学年」の家庭学習に取り組む児童、及び、働きかける保護者は共に80%台である。iPadを活用するなどスタイルが変わりつつある中、工夫した取り組みを今後も継続し、習慣化を目指す。

たくましく／「寝る時刻」や「メディアの利用時間」を守れていない児童もいる。生活習慣を整え、気持ちよく一日を過ごすことができるよう、家庭との連携を一層図っていく必要がある。

(3) 教職員の任用について

CSが持つ役割の一つに、「個人を特定しない教職員の任用について教育委員会に意見を述べるができる」とあります。（対象となるのは、採用、転任、昇進に関する事項であり、分限処分、懲戒処分については対象外）

まずは、各校の現状について話をうかがいました。

山潟中学校

- ・教職員の年齢構成が不均衡であるので、それを考慮したバランスのとれた任用をお願いしたい。
- ・ベテランの先生は、子どもの中に入っていける人が多く、保護者との関わりも良好な面があるが、組織の活性化や教育技術の伝承などの面から若手・中堅教職員の配置を希望する。

各小学校

- ・教職員の不足、人材確保が問題である。

（中学校では全学校に生徒指導主事が居るが、小学校では学級担任を兼ねていて業務過多である）

このような状況は、CS委員の間でも「学校運営に支障をきたす可能性がある。」との認識で一致しましたので、今後、山潟中学校区CSの総意として、教育委員会に意見を伝えていく予定です。

「CS通信」「地域と学校パートナーシップ事業」についての問合せ先

- * 山潟中学校 TEL 286-5369 (後藤 素子 地域教育 Co)
- * 山潟小学校 TEL 286-6796 (山田 真紀 //)
- * 桜が丘小学校 TEL 286-2955 (中村 知子 //)



Let's 運動の秋!